

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4571800277		
法人名	社会福祉法人敬愛会		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	宮崎県西諸県郡野尻町三ヶ野山4336番地16 (電話) 0984-44-3108		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年6月23日	評価確定日	平成21年9月30日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームむつみは、国道268号・野尻線を少し入った緑豊かで自然に恵まれた環境に点在する民家の一角に在る。同敷地内には、特別養護老人ホームやデイサービスセンター等が併設されている。利用者の一人は、合同行事である鹿児島一泊旅行を家族同伴で楽しまれた。利用者の半数の方は、開設当初から利用されており、重度化が進み、食事を始め日常生活の殆どに介助を必要とされているが、ホーム全体にゆったりした雰囲気があり、職員の表情が明るく和やかである。「愛」、「尊厳」の理念の下に利用者の気持ちに向き合い、寄り合いながら支援していることがうかがえる。

## 【情報提供票より】 (平成21年6月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤11人, 非常勤6人, 常勤換算7.25人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000~15,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

### (4) 利用者の概要(平成21年6月4日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	3	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	8	要支援2	0		
年齢	平均 87.8歳	最低	78歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野尻中央病院、押川病院
---------	-------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は、前回の外部評価の結果を全職員に伝え、全員で改善に取り組んだ。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、サービス評価の意義や目的を全職員に説明し、理解している。自己評価を職員全員で取り組み、事業所のサービスの質の確保に生かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業内容や利用者の状態及び評価の結果を報告し、出席委員から意見や要望を聴くなど双方向的な会議となるよう配慮している。出された意見や要望には前向きに取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回、家族懇談会を開催し、家族等の意見や苦情を聴き、前向きに生かす取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は、地域での文化祭、福祉祭り、生き生きサロンへの参加や出前介護教室を行っている。また、地域の保育園児の訪問や小・中学生のボランティアを受け入れる等、地域とのつき合いを大切にしている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	愛・尊厳を基本に利用者が地域の中でその人らしく生活することを支えていくサービスとしての事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、ミーティング時に話し合い、理念を共有している。日々の実践の中で理念が反映されるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、地域での文化祭、福祉祭り、生き生きサロンへの参加や出前介護教室を行っている。また、地域の保育園児の訪問や小・中学生のボランティアを受け入れる等、地域とのつき合いを大切にしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、サービス評価の意義や目的を全職員に伝えている。前回の外部評価の結果を報告し、全員で改善に取り組んだ。今回の自己評価を職員全員で取り組み、事業所のサービスの質の確保に生かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業内容や利用者の状態、評価の結果を報告し、出席委員から意見や要望を聴くなど双方向的な会議となるよう配慮している。出された意見や要望には前向きに取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席された町担当者や地域包括支援センター職員を通じて、行き来する機会があり、サービスの質の向上に生かしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の状況や健康状態について報告している。金銭管理は、利用者個々の金銭出納帳に記録し、家族にサインをもらっている。職員の異動については、ホーム日よりで紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族懇談会を開催し、家族等の意見や苦情を聴き、前向きに生かす取組を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は、職員の離職を極力抑えるよう、職場環境の改善に努めている。代わる場合は、引き継ぎの時間を十分に取り、利用者きちんと紹介するなど利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自に応じた研修が受けられるよう事業所内外研修の年間計画が立てられている。事業所外での研修内容は、全職員が共有できるよう復命書が作成され、ミーティング時に発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域での同業者の連絡会に積極的に参加している。学習会や交流の機会を持ち、事業所のサービスの向上に生かしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前のホーム見学や体験利用により、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から旧正月のめの餅飾りや干し大根作り、梅漬け等、四季折々の生活・食文化や畑の作物の育て方を教えてもらったりとお互いに支え合う関係を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「住人様のつぶやき」ノートを作成し、利用者が何気なくつぶやかれたことばも聴き逃さないようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	6か月ごとに利用者や家族、職員など必要な関係者と話し合い、それぞれの立場で意見を出し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月に1回の定期的見直しを行うとともに、利用者の状態変化に応じて随時見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、通院や墓参り、盆・正月の外泊時の送迎を行っている。遠方に住む家族の来訪時には、家族が宿泊できる準備がある。近隣の高齢者がショートステイを利用できるよう受け入れ体制がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診結果に関する情報の共有もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、医療連携体制ができており、家族・医師・看護師を交えて話し合い、関係者全体の方針の統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持が図られている。訪問中、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言動は見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その人らしい生活ができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化により介助を必要とする利用者が増えたため、4月よりご飯と汁物をホームで作っている。食事介助を必要とする方が多いユニットでは、職員と一緒に食事をするのは難しいが、両ユニットとも音楽を流したりテーブルの上に花を飾ったりするなど、食事を楽しむ工夫がなされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯を利用者の希望やタイミングに合わせて、午前又は午後に行なったり、清拭を行うなど柔軟に支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や「住人様のつづやき」ノートを利用しながら、菜園作り、花の鉢植えの水かけ等の役割や自宅訪問、墓参など気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣のスーパーへの買い物や敷地内での散歩など支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が日中、居室や玄関に施錠することの弊害を理解しており、鍵は掛けていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルが整備されている。地域住民の協力を得て、同敷地内施設との合同訓練や事業所独自に出火想定防災訓練計画が作成され、毎月1回訓練を行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有している。カロリーや栄養バランスは併設の栄養士にチェックしてもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節の花が生けられ、食堂、廊下等の共用生活空間は、不快な音も無く採光、換気、室温は居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やテレビ、使い慣れた日用品が持ち込まれ、その人らしく安心して過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。